

# 令和3年度しょうけい館運営事業実施状況報告

(令和3年4月から令和4年1月末日まで)

# 目次

## 1 しょうけい館利用状況

(1)今年度の事業概況	-----	1
(2)しょうけい館 来館者数	-----	2
(3)企画展 来館者数	-----	3
(4)団体利用集計		
利用団体別	-----	4
人数別	-----	5
利用団体人数別	-----	6

## 2 新型コロナウイルス感染予防施策

## 3 展 示

(1)企画展の実施	-----	8～12
(2)ミニ展示の実施	-----	13～15
(3)3館連携企画	-----	16～18
(4)上映会の開催	-----	19
(5)貸出キット	-----	20

## 4 資料収集・保存

(1)新規証言映像の収録	-----	21
(2)実物資料の収集	-----	21
(3)図書資料の収集	-----	21

## 5 普及・広報

(1)ホームページ・情報媒体利用	-----	22
(2)メディア・掲載記事	-----	23～28

## 6 語り部育成事業

## 7 語り部活動事業

## 8 友の会

## 9 利用者アンケート

# 令和3年度事業実施状況報告

令和3年4月から令和4年1月末日までの「しょうけい館」各分野毎の事業実施状況をご報告いたします。

## 1 しょうけい館利用状況

1

### (1) 今年度の事業概況

#### 新型コロナウイルスの影響による事業計画の変更(中止)

今年度は、来館者の感染予防を最優先して館を安全に運営するために、やむを得ず、多くの事業を延期・中止いたしました。

臨時休館	令和3年4月25日(日)から5月31日(月) (感染状況リバウンドを受け4月25日からの緊急事態宣言発令により)
展示会・催事	令和3年度 こども霞が関見学デーへの不参加(8月中旬)
見学運営	団体見学の受付中止 (令和2年6月～令和3年9月30日) 令和3年度は、新型コロナウイルス変異株の増加に伴う、緊急事態宣言の延長等状況を踏まえ、来館者と職員の安全を最優先に考えて中止していましたが、緊急事態宣言の解除を受け、10月1日より受付を再開しています。
語り部活動	①団体見学者向け講話の中止 (令和2年6月より中止し、令和3年10月1日より再開) ②定期講話会の中止 (感染状況の長期化に伴い、現在も中止を継続)

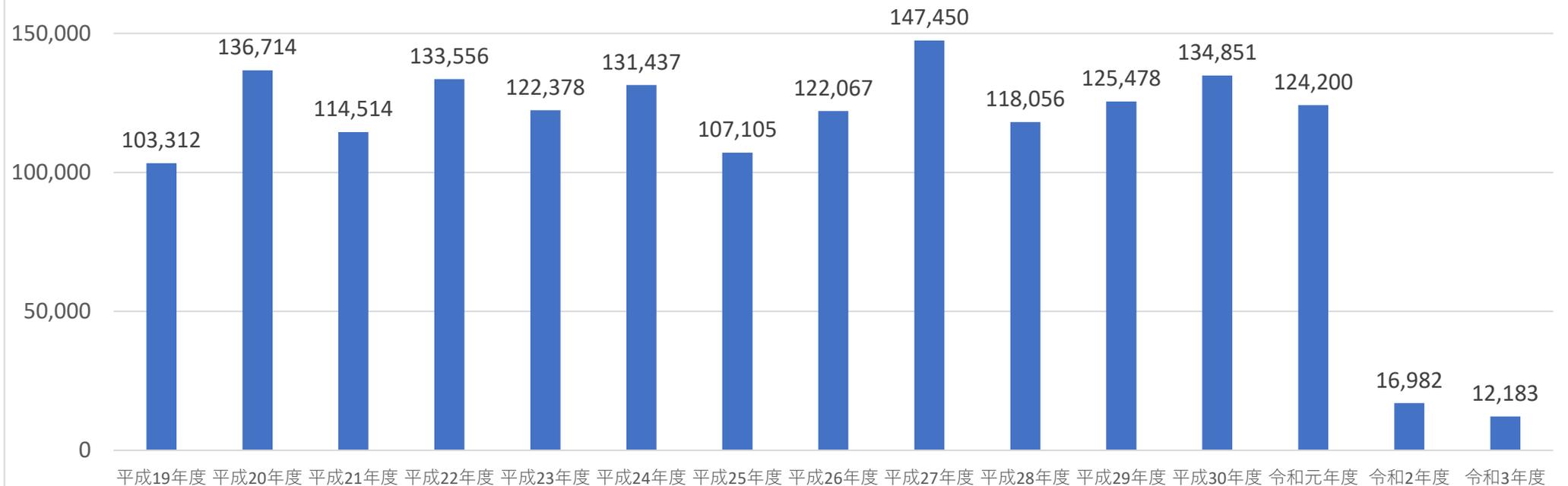
(2) しょうけい館 来館者数(令和4年1月末日現在)

※来館者数は、館が設置している「自動カウンター機」により計測

(単位：人)

月	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
4	8,439	13,980	12,276	14,139	11,723	13,568	9,644	12,806	11,873	12,327	13,761	13,978	13,824	0	1,134
5	9,193	9,395	7,592	8,164	7,982	14,710	9,421	11,224	11,526	8,864	8,732	8,796	9,413	0	—
6	8,356	14,235	11,548	11,940	11,635	12,424	11,748	12,043	12,172	12,163	12,134	9,166	10,123	1,357	893
7	10,094	10,345	10,655	16,356	12,395	12,480	10,884	13,515	16,547	9,083	12,489	12,998	13,827	1,916	1,334
8	16,608	17,316	14,640	17,260	15,192	17,236	13,592	15,763	21,267	12,663	16,369	19,039	17,147	2,646	2,320
9	8,277	13,664	7,610	12,996	10,125	9,892	8,205	8,943	12,218	8,387	8,453	9,199	8,733	2,194	1,004
10	6,653	7,392	8,252	9,186	8,346	12,664	8,960	9,479	10,350	8,590	9,028	10,510	9,161	1,506	1,529
11	8,365	6,232	7,144	9,888	8,024	8,264	8,124	8,477	9,624	6,347	9,118	11,013	11,332	1,569	1,347
12	5,497	7,760	8,316	8,792	7,953	8,012	8,442	8,602	11,753	8,888	7,382	9,045	9,623	1,177	1,262
1	4,910	16,527	7,580	8,140	6,203	5,210	5,970	5,994	12,422	9,169	8,247	10,266	11,213	1,443	1,360
2	7,311	10,476	8,893	8,912	8,420	7,118	4,381	5,119	8,673	9,194	8,358	11,397	9,804	1,610	—
3	9,609	9,392	10,008	7,783	14,380	9,859	7,734	10,102	9,025	12,381	11,407	9,444	0	1,564	—
計	103,312	136,714	114,514	133,556	122,378	131,437	107,105	122,067	147,450	118,056	125,478	134,851	124,200	16,982	12,183

年度別来館者数推移(単位：人)

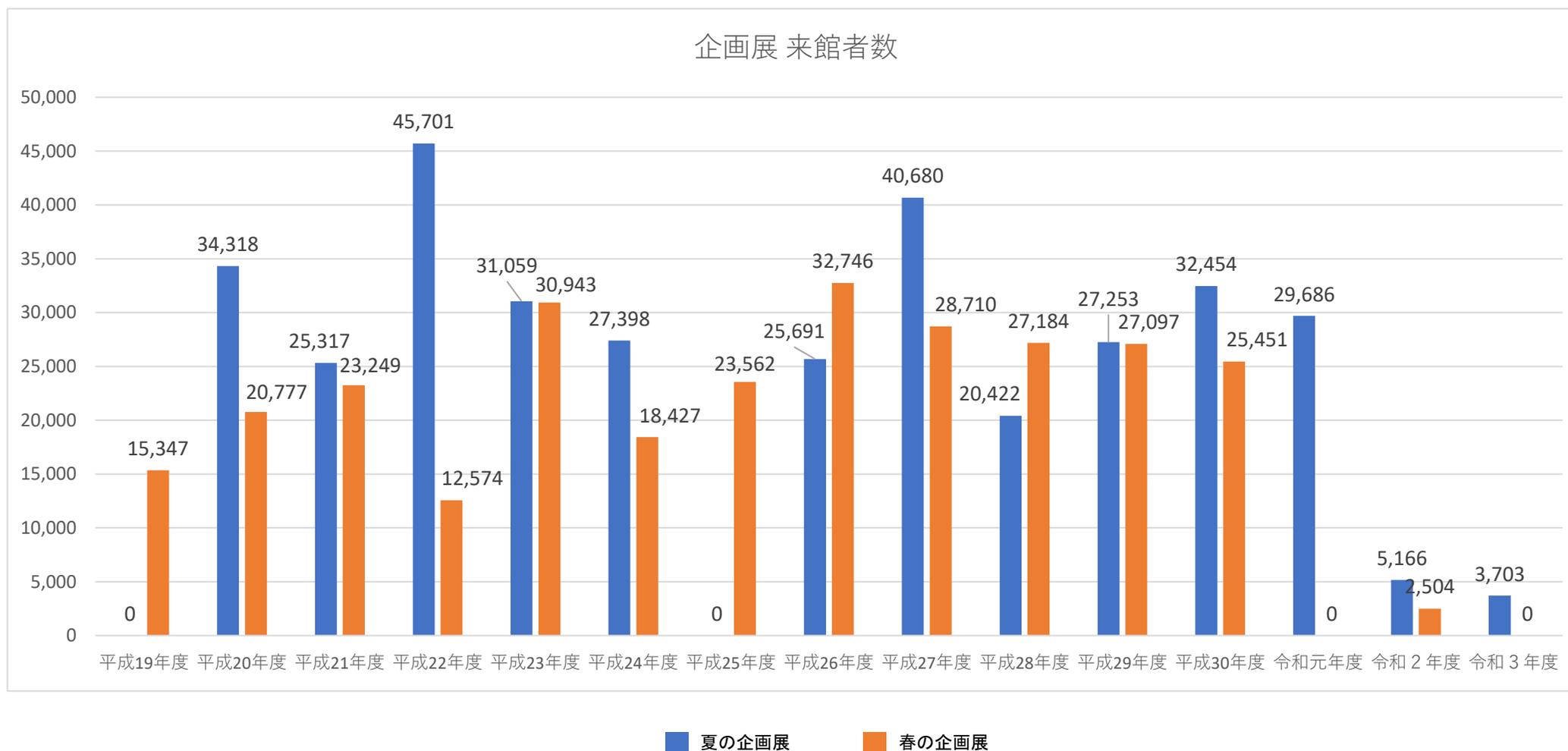


(3) 企画展 来館者数

(単位:人)

年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
夏	—	34,318	25,317	45,701	31,059	27,398	—	25,691	40,680	20,422	27,253	32,454	29,686	5,166	3,703
春	15,347	20,777	23,249	12,574	30,943	18,427	23,562	32,746	28,710	27,184	27,097	25,451	中止	2,504	—

企画展 来館者数

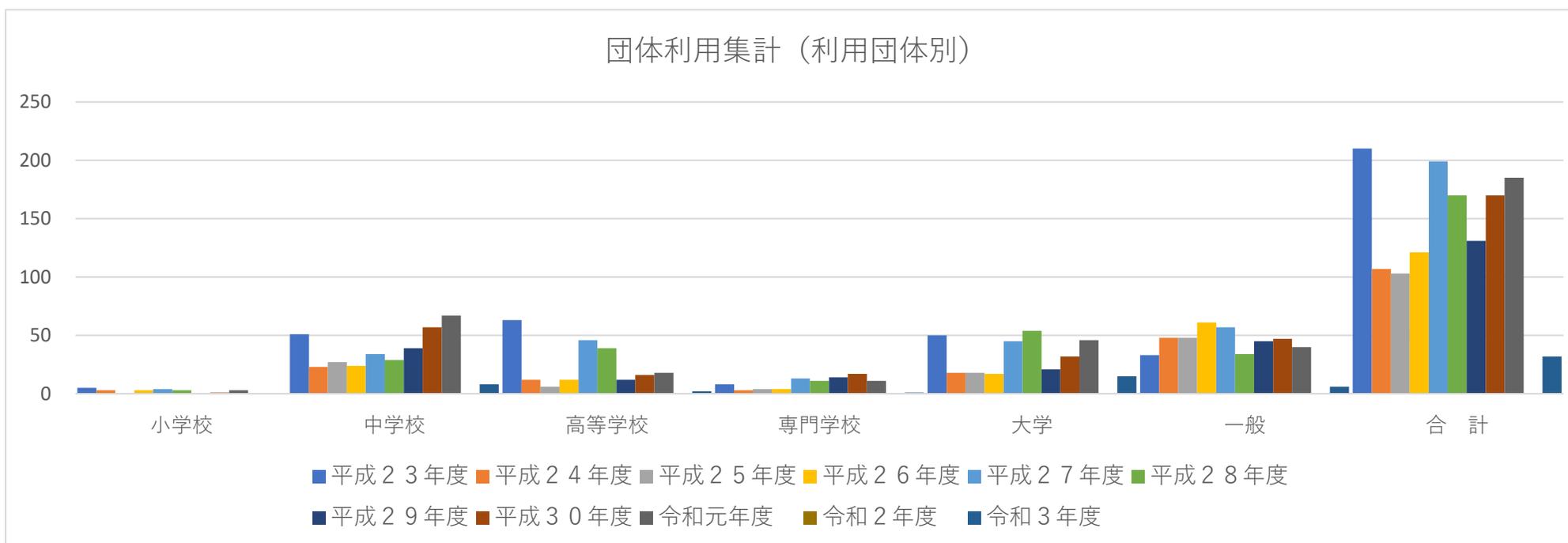


(4) 団体利用集計(利用団体別)

令和4年1月末日(単位:校)

	小学校	中学校	高等学校	専門学校	大学	一般	合計
平成23年度	5	51	63	8	50	33	210
平成24年度	3	23	12	3	18	48	107
平成25年度	0	27	6	4	18	48	103
平成26年度	3	24	12	4	17	61	121
平成27年度	4	34	46	13	45	57	199
平成28年度	3	29	39	11	54	34	170
平成29年度	0	39	12	14	21	45	131
平成30年度	1	57	16	17	32	47	170
令和元年度	3	67	18	11	46	40	185
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0
令和3年度	0	8	2	1	15	6	32

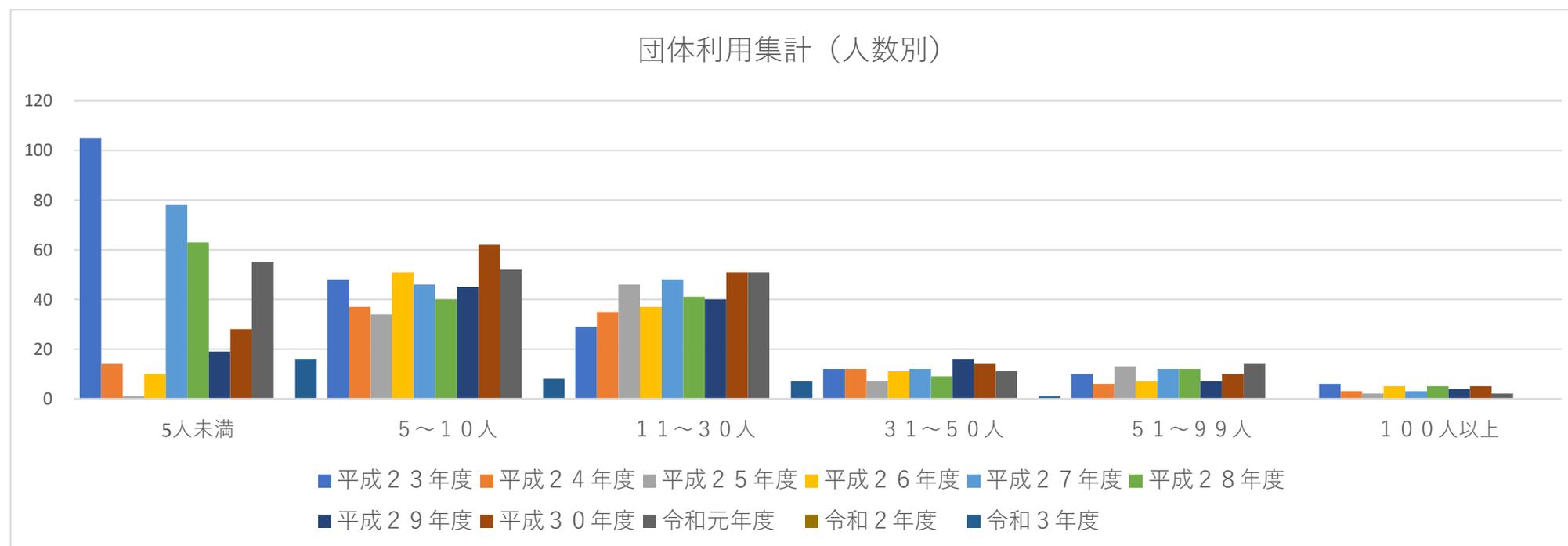
団体利用集計 (利用団体別)



(4) 団体利用集計(人数別)

令和4年1月末日(単位:校)

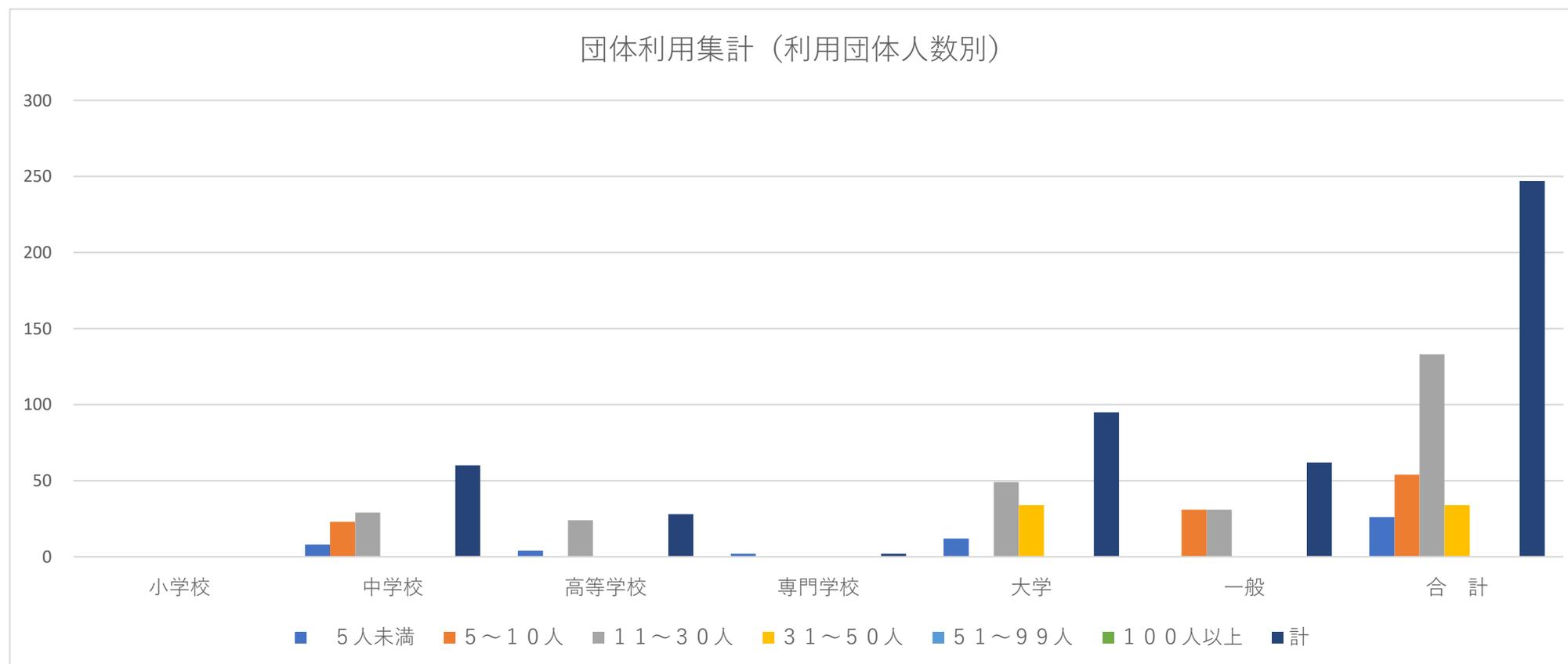
	5人未満	5~10人	11~30人	31~50人	51~99人	100人以上	合計
平成23年度	105	48	29	12	10	6	210
平成24年度	14	37	35	12	6	3	107
平成25年度	1	34	46	7	13	2	103
平成26年度	10	51	37	11	7	5	121
平成27年度	78	46	48	12	12	3	199
平成28年度	63	40	41	9	12	5	170
平成29年度	19	45	40	16	7	4	131
平成30年度	28	62	51	14	10	5	170
令和元年度	55	52	51	11	14	2	185
令和2年度	0	0	0	0	0	0	0
令和3年度	16	8	7	1	0	0	32



## (4) 団体利用集計(利用団体人数別(R3.10.1～R4.1末))

令和4年1月末日(単位:人)

	小学校	中学校	高等学校	専門学校	大学	一般	合計
5人未満	0	8	4	2	12	0	26
5～10人	0	23	0	0	0	31	54
11～30人	0	29	24	0	49	31	133
31～50人	0	0	0	0	34	0	34
51～99人	0	0	0	0	0	0	0
100人以上	0	0	0	0	0	0	0
計	0	60	28	2	95	62	247

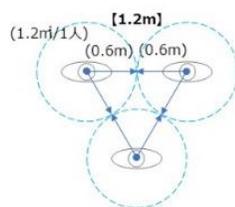


昨年度より「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン((公)日本博物館協会制定)」に基づき実施している感染予防施策に加え、令和3年10月14日に更新された同ガイドラインの内容に準じて新たに施策を策定、厚生労働省の確認を得て実施しました。

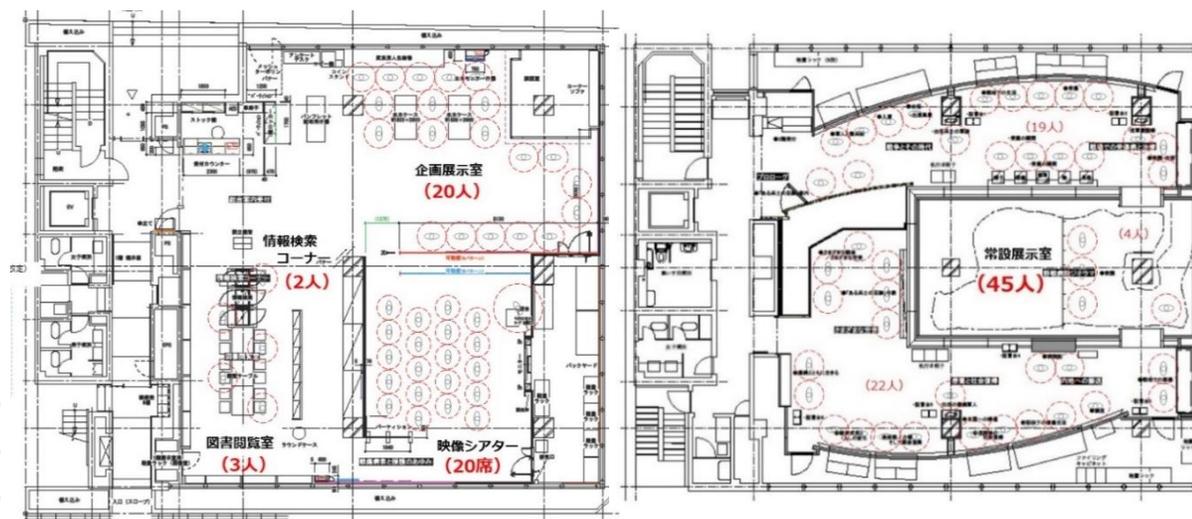
### (1) 来館者の収容人数を再検証と運営への反映

人と人との間隔を、従来の2m間隔から1.2mとし、団体見学者の受入れ(20名以内)、最大収容人数の設定更新を行いました。

1階 収容人数  
(来館者の間隔を1.2mに設定)



1階収容人数	45名	(変更前24名)
2階収容人数	45名	(変更前24名)
1階+2階 合計	90名	(変更前48名)



### (2) 抗原検査キットの導入

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部が示す

「医療従事者の不在時における新型コロナウイルス抗原定性検査のガイドライン」(令和3年6月25日)に則り、10月中旬より抗原検査キットを導入し、事務所内で保管することにより、積極的な感染予防と対処に努めました。

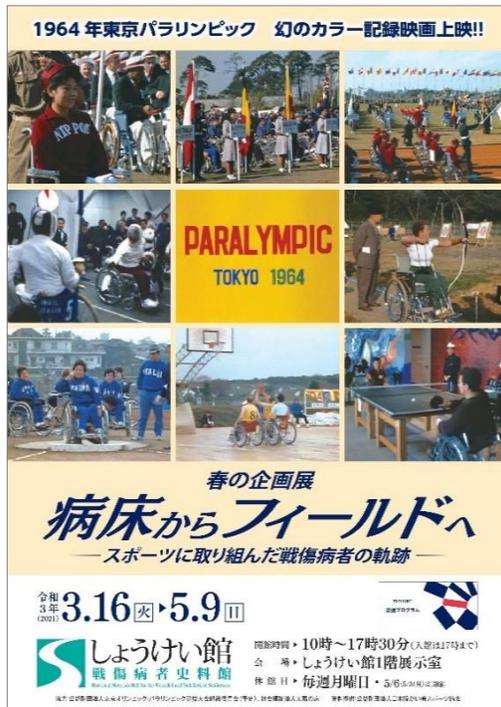
富士レビオ(株) エスプライン® SARS-CoV-2 (厚生労働省 承認製品)



## (1) 企画展の実施

## ① 春の企画展 : 病床からフィールドへ ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～

- 〈会 期〉 令和3年3月16日(火)～6月13日(日)  
(※当初は5月9日(日)までの会期であったが、令和3年4月25日から5月31日の間、緊急事態宣言による臨時休館のため、期間を延長)
- 〈協 力〉 東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会、社会福祉法人太陽の家
- 〈資料提供〉 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
- 〈内 容〉 本展では、スポーツが戦傷病者の人生にどのように関わってきたのか、戦時中の傷痍軍人錬成大会や東京パラリンピックなどを通じて紹介しました。(2020東京応援プログラム認定済み。)  
また、しょうけい館の収蔵品の中から発見された「1964年東京パラリンピック」のカラー記録映画も上映しました。
- 〈関連イベント〉 証言映像上映会 : 展示に関する証言映像を上映(会期中毎日)

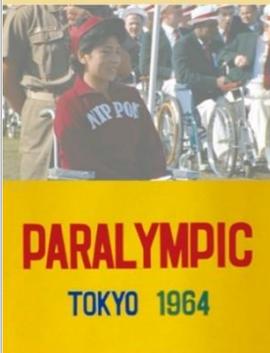


【春の企画展 特設WEBサイト(一部)】

来館が困難な状況でも、当館で所蔵する貴重な資料を、より多くの方に閲覧していただく施策として、企画展で展示する情報について当館HPの特設サイトとして展開しました。

**春の企画展** 病床からフィールドへ
トップページ 開催概要 記事

スポーツに取り込んだ戦傷病者の軌跡




### 傷病兵とスポーツ

現在の障がい者スポーツは、戦争によって傷つきあるいは病にたおれた傷病兵のリハビリがその起源となっております。本展では傷病兵とスポーツの歴史を紹介するとともに、日本における障がい者スポーツの転換期ともいえる1964年東京パラリンピックと、出場した傷病兵の活躍を紹介します。



開催概要



1. 戦時中の傷病兵とスポーツの関係



2. パラリンピックの始まり



3. 1964年東京パラリンピックと出場した傷病兵の活躍



4. 1964年東京パラリンピックのカラー記録映画



PAGE TOP

**春の企画展** 病床からフィールドへ
トップページ 開催概要 記事

スポーツに取り込んだ戦傷病者の軌跡

## 2. パラリンピックの始まり

トップページ > 2. パラリンピックの始まり

障がい者によるスポーツ大会と言えば、誰もがパラリンピックを思い浮かべるのではありませんか。そんなパラリンピックですが、実はある病状で発症された障がい者がその始まりとなっています。



これは、1964年東京(パラリンピック)の銀メダル(複製)です。メダルには「Tokyo 1964」

#### 記事一覧

- ① 戦時中の傷病兵とスポーツの関係
- ② パラリンピックの始まり
- ③ 1964年東京(パラリンピック)と出場した戦傷兵の活躍
- ④ 1964年東京(パラリンピック)のカラー記録映画

**春の企画展** 病床からフィールドへ
トップページ 開催概要 記事

スポーツに取り込んだ戦傷病者の軌跡

## 1. 戦時中の傷病兵とスポーツの関係

トップページ > 1. 戦時中の傷病兵とスポーツの関係

日本における障がい者スポーツの歴史は、今から80年ほど前になります。



戦争によって傷ついた傷病兵は体の一部を失ったり、後遺症として機能障害が残ったりしました。そのため、自身の身体機能の回復を目指す訓練の一環としてスポーツ大会が開かれるようになりました。この写真では、片脚が満足な傷病兵が紹介されています。

#### 記事一覧

- ① 戦時中の傷病兵とスポーツの関係
- ② パラリンピックの始まり
- ③ 1964年東京(パラリンピック)と出場した戦傷兵の活躍
- ④ 1964年東京(パラリンピック)のカラー記録映画

## ② 夏の企画展：義足は語る～戦争で足を失った戦傷病者の歩み～

〈会 期〉 令和3年7月14日(水)～9月12日(日)

〈協 力〉 川村義肢榭、(財)啓成会、航空自衛隊入間基地修武台記念館、大隈重信記念館、早稲田大学大學史資料センター

〈内 容〉 箱根療養所で車いす生活を送った戦傷病者を中心にその労苦を振り返るために、車いすそのものにも目を向け、当時の車いすの役割や、戦後のパラリンピックスポーツへの発展についても紹介しました。  
また、当館所蔵の「箱根式車いす」に加え、最新式の競技用車いすも展示しました。

〈関連イベント〉 期間中は1964年東京パラリンピックの、現在確認されている唯一のカラー記録映画を証言映像シアターにて上映しました。



## ② 夏の企画展： 義足は語る～戦争で足を失った戦傷病者の歩み～



③ 春の企画展 : 残された言葉や声をたずねて

〈会 期〉 令和4年3月15日(火)～5月8日(日)

〈内 容〉 戦傷病者は、戦中・戦後を通してさまざまな苦しみや辛さを抱え、彼らは、自身の体験を書籍や手記に綴ったり、映像で当時の思いを語ったりしました。その中には、戦地での思いや、戦後も続く傷の痛み、これまでの人生を振り返った心境など、さまざまな場面に応じて発せられた印象的な言葉や声の数々が残されており、それらに焦点をあて展示いたします。

〈関連イベント〉 証言映像上映会 : 展示に関する証言映像を上映(会期中毎日)



チラシデザイン(案)表面



チラシデザイン(案)裏面

## (2)ミニ展示の実施

### ① 第28回 「教育紙芝居にみる傷痍軍人」

〈会 期〉 令和3年6月15日(火)～7月11日(日)

〈内 容〉 当館が所蔵する傷痍軍人がテーマの教育紙芝居、「原っぱの子供達」と「雪晴れ」の二作品を、展示・紹介しました。軍人援護の物語、戦意を高揚させる物語なども多く、終戦時に大量の作品が焼却・廃棄されたと考えられており、貴重な資料です。紙芝居の原稿を展示すると同時に、実際に読み聞かせを再現した映像を製作し、視聴できるようにしました。



## ② 第29回 「戦傷病者とスポーツ～パラリンピックに出場した戦傷病者～」

〈会 期〉 令和3年9月14日(火)～12月26日(日)

〈内 容〉 東京で2回目となる2020オリンピック・パラリンピックが開催された年であり、特にパラアスリートの活躍も注目されたこともあり、改めて本展では、先の1964年東京大会パラリンピック開催における戦傷病者の出場と活躍について、紹介するとともにしょうけい館の収蔵品の中から発見された「1964年東京パラリンピック」の貴重なカラー映画も上映しました。



### ③ 第30回 「4名の戦傷病者のエピソード」

〈会 期〉 令和4年1月5日(水)～3月13日(日)

〈内 容〉 戦傷病者は傷を受けた体の部位や病気の種類によっても、さまざまなものがあり、頭部に負った傷により意識の消失やけいれんなどの症状が急に起こる後遺症や、腕や脚の負傷により物をつかむことや歩行など日常生活における動作の困難、また病に罹った場合、見た目だけでは判断がつかず周囲の人から理解されづらいという労苦など、この展示では4名の戦傷病者に焦点を当て、ご寄贈いただいた資料とともに紹介しました。



## (3) 3館連携企画

## ① 3館連携企画展

〈主 催〉 しょうけい館・昭和館・平和祈念展示資料館

〈会 期〉 令和3年10月29日(金)～11月7日(日)午前9時30分～午後5時

〈会 場〉 松江テルサ テルサホール(松江市朝日町478-18)

〈後 援〉 島根県 松江市 島根県教育委員会 松江市教育委員会 朝日新聞松江総局 毎日新聞松江支局 読売新聞松江支局  
産経新聞社 中国新聞社 山陰中央新報社 新日本海新聞社 島根日日新聞社 共同通信社松江支局 NHK松江放送局  
山陰放送 日本海テレビ 山陰中央テレビジョン放送 エフエム山陰 山陰ケーブルビジョン

〈協 力〉 一般財団法人島根県遺族連合会および一般財団法人日本遺族会第4ブロック

〈内 容〉 戦後生まれの世代が大多数を占める現在、戦中・戦後の労苦について国民への理解を深めるべく、東京の3つの国立の施設が合同で展示を行いました。しょうけい館では、島根県出身の戦傷病者の義足をはじめとして、様々な戦傷病の労苦について紹介しました。

また2020パラリンピック開催にちなみ、1964年東京パラリンピックと戦傷病者に関する資料と、貴重な映像を紹介しました。



## ① 3館連携企画展



## ② 夏休み3館めぐりスタンプラリー

〈主 催〉 しょうけい館・昭和館・平和祈念展示資料館

〈期 間〉 令和3年7月17日(土)から9月5日(日)  
3館にてスタンプ台紙を配布

〈内 容〉 しょうけい館、昭和館、平和祈念展示資料館の3館を巡り、  
3館のスタンプを集め終わった方に最後の館で3館の  
オリジナルグッズを配布しました。

〈参 考〉 各館オリジナルグッズ

- ・しょうけい館……………花森安治氏マスクケース
- ・昭和館……………エコバッグ
- ・平和祈念展示資料館……メモ帳

〈3館合計参加人数〉

スタンプ台紙配布枚数 3,655枚(前々年度7,785枚)

3館スタンプ完了参加賞配布数 372組(前々年度1,214組)



## ③ こども霞が関見学デー【不参加】

25府省庁等が参加する「こども霞が関見学デー」は、例年、昭和館や総務省委託の平和祈念展示資料館とともに出展し、資料館の紹介やワークショップを行っています。

今年度はオンラインを中心に、令和3年8月18日・19日に開催されましたが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、参加はしませんでした。

## (4) 上映会の開催

## ① 証言映像定期上映会の開催

「戦傷病者の証言映像」を、地域別をはじめとする内容に沿ったテーマを設定し、上映を行いました。

## 近畿地方編 その1/その2

〈会 期〉令和3年6月15日(火)～7月11日(日)

令和3年9月14日(火)～10月5日(火)

〈内 容〉近畿地方で収録した証言映像24本を上映。

## 戦傷病者の証言～失明者編～

〈会 期〉令和3年10月13日(水)～12月5日(日)

〈内 容〉戦地で眼を負傷し、失明者としての労苦を抱えながら人生を送ってきた戦傷病者の証言映像3本を上映するとともに、関連する収蔵品も展示。



## 戦傷病者の証言～飛行兵編～

〈会 期〉令和3年12月7日(火)～令和4年1月30日(日)

〈内 容〉飛行兵として軍隊生活を送り、戦闘や航空事故で受傷した戦傷病者の証言映像4本を上映するとともに、関連する収蔵品も展示。



## ② 夏の企画展「証言映像上映会」

〈期 間〉令和3年7月14日(水)～9月12日(日)

〈内 容〉夏の企画展「義足は語る」に関連して、義足と共に人生を歩んだ戦傷病者やその家族などの証言映像23本を上映。

## ③ 平和祈念展示資料館連携企画

〈期 間〉令和3年10月6日(水)～10月12日(火)

〈会 場〉九段生涯学習館2階 九段ギャラリー

〈内 容〉九段生涯学習館で開催された平和祈念展示資料館の、特別展示「漫画と絵本で伝えるシベリア抑留『凍りの掌』『氷海のクロ』原画展」の連携企画として、シベリア抑留を体験した戦傷病者の方の証言映像を上映するとともに、関連する収蔵品の展示、手記などの関連図書なども特別に紹介。



## (5) 貸出キット

## ① 貸出キットの利用

貸 出 先 : 長野県 上田高等学校

貸 出 期 間 : 令和3年11月4日(木)～令和3年11月20日(土)

貸 出 資 料 : 展示パネルA2サイズ30点セット・義足

期間中の入場者 : 38人(アンケート集計数による)

## ② 実施概要

教科書に記載されない傷痕軍人の視点から彼らが経験した苦難を調べることで、先の大戦について、多面的・多角的に歴史的事象をとらえる視座を獲得するとともに、「歴史を考える」ことの意義を深く理解する。

## ③ 貸出キット構成内容

(常設展示室で展示している内容をコンパクトにまとめたもの)

①展示パネル (解説パネルと 関連パネルで構成)	30点	* 戦争とその時代 * 戦地での受傷病と治療 * 本国への搬送・帰還後の労苦 * 戦後の労苦 (など)
②実物資料	1点	* 義足
③展示パネル	8点	* 戦中の労苦 * 戦争とその時 * 受傷 * 戦後の労苦 * 救護・収容 * 戦時下の療養生活 * 終戦直後の労苦 * 傷病とともに生きる
④箱根療養所 パネル	7点	* 箱根式車椅子と子どもの作文 * 箱根病院の変遷 * 戦中の療養 * 戦後の療養 * 入所者を見守った書画 * 傷兵院と箱根療養所の入所者数 * 入所者の支え
⑤証言映像DVD	1点	

長野県 上田高校 大会議室



### (1) 新規証言映像の収録

- ・令和3年度は、11月に千葉県野田市で1件収録し、令和4年3月までに編集を完了し、同月より公開を予定しています。

(収録の様子)



### (2) 実物資料の収集

寄贈では、戦傷病者本人が最後まで所有していた資料（現認証明書、症状経過書などの証明書類、補装具など）を受け入れました。

購入では、日中戦争期の衛生部隊の写真帳、傷痍軍人療養所の写真葉書などを入手しました。

令和2年度末までの登録数(内、平成24年度まで 9,060点)	31,153点
令和3年度の資料寄贈(令和4年1月末現在)	326点
令和3年度の資料購入(令和4年1月末現在)	61点
館所蔵資料総合計(令和4年1月末現在)	31,540点

\* 令和2年11月から令和3年11月の受け入れ資料については、令和3年11月15日より11月19日まで燻蒸を実施した。

### (3) 図書資料の収集

寄贈では、従軍看護婦の体験記、研究者からの研究成果物などを受け入れました。

購入では、傷痍軍人療養所の機関誌や外地の陸軍病院関係者の回顧録などを入手しました。

令和2年度末までの登録数(内、平成24年度まで 7,902点)	10,208点
令和3年度の寄贈(令和4年1月末現在)	52点
令和3年度の購入(令和4年1月末現在)	4点
館所蔵図書資料総合計(令和4年1月末現在)	10,264点

### (1) ホームページ・情報媒体利用

「広報千代田」等の広報物、東京都博物館協議会等の刊行物、「千代田区観光協会」HP、「インターネットミュージアム」、「イベントバンク」等の情報サイトを活用し、令和3年度は地方展、企画展や定期上映会等について、それぞれの媒体に対して29回掲載し、新鮮な情報提供に努めました。

しょうけい館ホームページは、「館だより」を6回、企画展等その他のページ情報を20回更新しました。

令和3年度は、企画展の展示資料を紹介する特設ページを設けるなど、コロナ禍で来館できない方々にも展示内容を知ってもらえるようにしました。

またホームページでは、データベースを活用した図書検索機能を、フリーワードのほか、書名、著者名、出版者(社)、出版年、ジャンル、分類番号を用いた容易な検索により、機能性の高いホームページとして認識されています。

(2)メディア・掲載記事

8月16日 HBS北海道放送「戦後76年-軍医だった曾祖父」

軍医だった曾祖父が戦争当時、どんな思いで何を感じていたかを知るために、しょうけい館も取材を受け、展示や軍医の証言映像が紹介されました。



8月17日 NHK首都圏ネットワーク「戦後76年 戦争体験者の証言収集難しく 遺品活用での継承課題に」



## (2)メディア・掲載記事

8月21日 NHK ETV特集「戦火のホトギス」

戦時中も発行が続けられた俳句雑誌「ホトギス」には日本が広げた戦地からの投句で埋められており、その俳句を手がかりに投稿者を追うなかで、戦中戦後の労苦を伝える当館も取材を受け、紹介されました。



8月22日 NHK BS1スペシャル 「感染症に斃れた日本軍兵士 マラリア知られざる日米の攻防」

コロナ禍、感染症と戦争の関わりが注目され、先の大戦で兵士の6割が餓死・戦病死だったという日本軍の状況について当館も取材を受けました。

11月6日 BSフジ 「皇室のこころ」

天皇陛下が1964年パラリンピック名誉総裁を務められたことから、障がいを持つ選手のなかに戦傷病者がいたことについて当館が紹介されました。



## (2)メディア・掲載記事

10月29日 NHK松江支局ローカルニュース「3館連携企画展」

3館連携企画展「島根展」の開催に併せて取材を受け、紹介されました。



12月8日 NHK 首都圏ネットワーク「開戦80年の当日、平和への動き」

開戦80年の当日、真珠湾慰霊式典や、戦争の労苦を伝える活動として、当館も取材を受け、紹介されました。



(2)メディア・掲載記事

7月26日 上毛新聞「転換点迎えた伝え方」

国内社会 2021年(令和3年) 7月26日 (月曜日)  
(第三種郵便物承認)

### 論説

## 転換点迎えた「伝え方」

本洋戦争の終戦から76年、開戦から80年がたつ。戦争体験者が確実に減少していく中、戦争の記憶を次世代に伝え、平和の意味を考へることが一層難しくなっている。今後はこれまで各地の資料館などが収集してきた戦争資料に、関心を持つ人がアクセスしやすい環境を整えることが必要だ。

本来「体験」という言葉の意味を考えれば、それを本人以外が語り継ぐことは不可能だ。戦後76年がたつ今も、全国で戦争を伝えようとする動きが続いているのは、先の大戦が日本史上、未曾有の大事件だったからだ。日本人にとって忘れてたくても忘れられない出来事だったといえる。

今年、県内外の関連資料館の関係者や識者を取材して印象深かったのは、体験者の減少により、戦争の伝え方の「転換点」が訪れて

とでは、海外選手の半数が、海外選手は半数、日本選手は1割、およそ10人に1人が、6割強の海外選手が車をもっていた。同様の北村明事務局長は「同時に、日本では障害者は1割の身元で、世界の障子を目的と定めて、日本の障害者の生活やスポーツの機会になった大会だったので、このことを。」

水泳とフライング組で銀メダルに輝いた青野繁人は、戦時中の一人、選手宣誓では「パラリンピックを機に、多くの現実を理解して、多くの人が現実にあきらめてしまっている。政治世の中が、わかってほしい」との思いを込めた。北村事務局長は資料を基に教えてくれた。

あれから59年、日本代表は54人(10日現在)の中には、戦争が原因で障害を負った選手はいない。平和への感謝と同時に、障害を取り巻く環境はどう変わったのかを考えた。(藤田伸也)

東京パラリンピック開幕まであと10日。史上初となる同一都市でも皆の大倉庫前のさまざまなシーンを描きま

トでは、海外選手の半数が、海外選手は半数、日本選手は1割、およそ10人に1人が、6割強の海外選手が車をもっていた。同様の北村明事務局長は「同時に、日本では障害者は1割の身元で、世界の障子を目的と定めて、日本の障害者の生活やスポーツの機会になった大会だったので、このことを。」

水泳とフライング組で銀メダルに輝いた青野繁人は、戦時中の一人、選手宣誓では「パラリンピックを機に、多くの現実を理解して、多くの人が現実にあきらめてしまっている。政治世の中が、わかってほしい」との思いを込めた。北村事務局長は資料を基に教えてくれた。

あれから59年、日本代表は54人(10日現在)の中には、戦争が原因で障害を負った選手はいない。平和への感謝と同時に、障害を取り巻く環境はどう変わったのかを考えた。(藤田伸也)

東京パラリンピック開幕まであと10日。史上初となる同一都市でも皆の大倉庫前のさまざまなシーンを描きま

とでは、海外選手の半数が、海外選手は半数、日本選手は1割、およそ10人に1人が、6割強の海外選手が車をもっていた。同様の北村明事務局長は「同時に、日本では障害者は1割の身元で、世界の障子を目的と定めて、日本の障害者の生活やスポーツの機会になった大会だったので、このことを。」

水泳とフライング組で銀メダルに輝いた青野繁人は、戦時中の一人、選手宣誓では「パラリンピックを機に、多くの現実を理解して、多くの人が現実にあきらめてしまっている。政治世の中が、わかってほしい」との思いを込めた。北村事務局長は資料を基に教えてくれた。

あれから59年、日本代表は54人(10日現在)の中には、戦争が原因で障害を負った選手はいない。平和への感謝と同時に、障害を取り巻く環境はどう変わったのかを考えた。(藤田伸也)

東京パラリンピック開幕まであと10日。史上初となる同一都市でも皆の大倉庫前のさまざまなシーンを描きま

8月14日 朝日新聞「1964年 見た世界との差」

## 1964年 見た世界との差

### 職を持つ選手 海外は半数 日本は1割

東京・丸の内にある障害者者史料館「しょうけい館」には、1964年東京パラリンピックを記録した貴重なカラー映像が残っている。大会が閉幕して、前回の東京大会(1964年)を知りたくて、同館を訪れて特別に見せてもらった。

約25分の映像には、開会式の様子のほか、車いすで卓球やバスケットボールをする約20カ国選手の人々の姿が映っていた。生着、現摩生労働者と、労働者の職業施設である国箱根根根所(現国立労働福祉センター)が企画・制作した映像だ。日本の参加選手は53人、19人が箱根根根所から選出された。次世界大戦で負傷した戦時中、ナレーションでは、日本と世界の障害者の生活についても触れていた。選手アンケート

東京パラリンピック開幕まであと10日。史上初となる同一都市でも皆の大倉庫前のさまざまなシーンを描きま

8月24日 時事ドットコム「東京パラ、前例なき開幕 後世が見る真の意義」

東京パラ、前例なき開幕 後世が見る真の意義【パラリンピック】

2021年08月24日17時06分

東京パラリンピックも、8日に開幕した五輪に続き、新型コロナウイルスを避けられない。感染すれば重症化しかねない疾患を抱える選手も参加するスポーツの祭典にとっては、前例のない開幕となる。

東京パラ、開幕へ 緊急事態宣言下で開会式—64年以來2度目

世界に12億人いるとされる障害者が脚光を浴びる機会だからこそ、「共生社会」「多様性」などの意義が語られる。ただ、目下の感染症に日常のみならず、生命も奪われかねない苦難は1年延期の代償を払ってもおお深くなり、大会開催に国民の幅広い共感や賛同を得るのが難しい状況にある。

57年前、最初の東京パラリンピックが行われた。厚生省(現厚生労働省)などが企画制作し、東京都千代田区の戦傷病者史料館「しょうけい館」に残された記録映像に映る国内外の選手は、一様に病院でよく見る車いすに乗っていた。違うのは表情だ。

海外勢は朗らかに汗を流す姿が多かった。既に職業や自動車を持つ人が目立つことも紹介されたが、一方の日本勢について、ナレーションが「その逆」と表現した。主に国内療養所の入所者や病院の入院患者を集めた日本と、「社会人」である海外選手との違いが鮮明になった。そのことが、後の政策改善につながったと言える。

記録映像は大会の理念を一切伝えていない。後世に残る本当の意義は、開催した後に見えてくる。

今夏の東京五輪では、SNSなどで心ない誹謗(ひぼう)中傷にさらされながらも毅然(きぜん)と競技に向き合い、試合で姿勢に追い込まれても臨んできたアスリートの姿に励まされた人は少なくない。同じように己の限界に挑むパラアスリートの姿が何をもちたすのか。真価が問われる舞台でもある。



(2)メディア・掲載記事

10月30日 山陰中央新報社「戦争資料を展示」

**戦争資料を展示**

【松江】戦中戦後の暮らしを伝える企画展が29日、松江市朝日町の松江テルサで始まった。第2次世界大戦時の出征者宛ての寄せ書きや、銃弾の痕が残る軍帽といった約140点を展示する。入場無料で、11月7日まで。

戦争に関する資料を収集する国立施設の昭和館、しよけい館、平和祈念展示資料館（いずれも東京都）が2013年から全国各地で、

「松江」戦中戦後の暮らしを伝える企画展が29日、松江市朝日町の松江テルサで始まった。第2次世界大戦時の出征者宛ての寄せ書きや、銃弾の痕が残る軍帽といった約140点を展示する。入場無料で、11月7日まで。

戦争に関する資料を収集する国立施設の昭和館、しよけい館、平和祈念展示資料館（いずれも東京都）が2013年から全国各地で、

で開く合同の巡回展示で、今回で9回目。

昭和館のコーナーは、雲南市木次町出身の出征者に贈られた寄せ書きがある。日章旗の白地部分に、親戚や同僚が戦意高揚の言葉をつづる。しよけい館の資料は、銃弾痕が残る軍帽が目を引く。1940年に中国で戦闘中、銃弾が軍帽を裂きながら頭部をかすめ、かぶっていた兵士は半身まひといった重い後遺症で苦しんだという。

平和祈念展示資料館はシベリア抑留を題材にした漫画「凍りの掌」と絵本「氷海のクロ」の原画、島根県西ノ島町出身の山本福男さんが抑留中に妻と交わした往復はがきを並べた。

昭和館学芸部の佐藤綾子調査役は、「さまざまな切り口を通じ、戦争体験のありように関心を持ってほしい」と来場を呼び掛ける。

（佐賀公哉）

紙面編集・園 慎太郎

11月4日 読売新聞「戦争の惨禍身近に」

**戦争の惨禍身近に**

シベリア抑留の過酷な状況を伝える会場（松江市中）

松江 兵士義足や家族写真 140点

太平洋戦争の悲惨さを伝える資料の展示会が、松江市朝日町の松江テルサで開かれている。7日までで、無料。

東京都内で戦争の記憶を伝える「昭和館」「平和祈念展示資料館」「しよけい館」の3施設による連携企画。施設ごとにブースが設けられ、

所蔵する品々など計約140点が並ぶ。

会場には、銃弾を受け側面が破れた軍帽やシベリア抑留者が使った防寒用コートのレプリカ、同抑留者の体験を描いた漫画の原画などを展示。また、負傷した兵士が着用していた義足をはじめ、出征前に家族らで撮影した写真や同僚が送った寄せ書きなど県内ゆかりの品もあり、来館者が興味深そうに眺めていた。

昭和館の佐藤綾子学芸員は「島根に関する資料も集めており、戦争を歴史ではなく、現代につながる身近な話として感じてほしい」と話した。

期間中無休で、展示は午前9時半～午後5時。

12月21日 東京新聞「戦禍をたどる平和の散歩」

2021年(令和3年)12月21日(火曜日) 11版 28

**戦禍たどる**

太平洋戦争の開戦から今年で80年。往時を知る人の多くが鬼籍に入り、戦禍の記憶の風化が懸念されている。東京都内には戦前から戦後にかけての実相を伝える博物館や資料館が複数ある。冬休みに親子で日本が歩んだ道を振り返り、平和を考える散歩はどうだろう。

**平和の散歩**

代表的な施設は、日本武蔵野や靖国神社にほど近い九段下の昭和館。写真、庶民の暮らしや、千人針、戦地からの家族に宛てた手紙など、人びとの思いがもつたものを展示する。

昭和館の至近距離に「しよけい館」。戦傷者史料館「身重」も、戦禍で負傷した、病状になつたつた戦傷者は旧日本陸軍だけで八十四万人にのぼった。野戦病院を再現した施設の主幹さか、過酷な戦場を思いをさせる。

復讐兵士、シベリア抑留などからの帰国者、海外からの引揚げ者の苦勞を記録するために二〇〇〇年に開設されたのが西新町の平和祈念展示資料館。写真、川口原里絵学芸員は「戦争が一九四五年八月十五日に始まった入ることを忘れてほしい」と話す。

四五年十月十日、東京の下町地域が無事化し、十万人以上が亡くなった東京大空襲。その惨禍を伝えるのが江東区の東京大空襲・被災資料センター。写真、昨六月に大幅リニューアルし、展示を時系列にするなど当時の状況がわかりやすいよう工夫した。

多摩地区にも目を向けよう。多摩には多くの軍需工場があった。しばしば空襲の標的となつた。東大和市の日立航空機整備工場跡には、コンクリート壁に残る無数の弾痕が、戦火を伝える。地元市民の働き掛けもあり、改修や耐震補強を行つて今年十月に公開を再開した。

隣の武蔵村山市には市立歴史民俗資料館分庫。写真、がある。市内にはかつて、十代前半の少年を募集して養成する一東京陸軍少年飛行兵学校が置かれ、その過去を記録するため二〇一六年に開設した。特攻隊員として戦死した少年飛行兵も多かったといふ、あどけない少年たちが訓練に励む写真などは、戦争がいかに人間の理性を奪うかを物語る。

文・小松田健一／写真・戸田泰雅、佐藤悠也、小松田健一／紙面構成・宮崎仁美

東京市内の戦争に関する博物館・資料館

施設の特徴／備考の駅

1 昭和館 (千代田区) 昭和天皇の玉音放送演説の音声を聞ける／東京メトロ、都営地下鉄丸の内線

2 しよけい館 (中央区) 戦傷者の簡便展示に特化した博物館／有線新宿住宅ビルの中という便利な立地／有線新宿駅

3 平和祈念展示資料館 (新宿区) 日中戦争時の日本軍による連発連撃など、道中の歴史紹介にも力を入れる／東京メトロ、都営地下鉄丸の内線

4 東京大空襲・被災資料センター (江東区) 市内に残る数少ない戦争遺構／臨海副都心、多摩都市モノレール玉川上水駅

5 旧日立航空機整備工場跡 (東大和市) 子ども戦地へ動員した歴史を記録する／日立川駅、玉川上水駅から5分

6 武蔵村山市立歴史民俗資料館 (武蔵村山市) 戦中戦後の暮らしを伝える企画展が29日、松江市朝日町の松江テルサで始まった。

※休館日、入場料などの詳細は各施設のホームページで確認を

## 語り部の育成

【第3期生】 平成30年度より開始した研修の3年目は、コロナの影響を受けながらも、無事、修了することができました。臨時休館による研修遅延もありましたが、日程を集約・調整し、またリモートでの研修も実施しました。令和3年12月に審査会を行い、令和4年1月15日(土)の修了式を経て、修了証を交付しました。(第3期生4名のうち、1名は持病悪化による療養のため、研修を一時中断した。研修再開と修了時期は未定。)修了後は、「次世代の語り部」として委嘱し、第1期生・第2期生とともに館の語り部として活動していきます。



第3期生審査会



第3期生修了式

## 次世代の語り部講話活動

第1期生10名、委嘱後の第2期生7名による「次世代の語り部」講話活動を実施しています。

【館内講話】 令和3年10月から団体見学を再開し、見学時の希望に応じて講話を実施しました。

【派遣講話】 令和3年7月、8月、12月に計4回、派遣講話を実施しました。

【定期講話会】 令和2年10月から月2回、一般来館者向けに、館内で定期講話会を実施しましたが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、定期講話会は実施しませんでした。

館内講話の様子  
(当館1階シアター)



千葉明德短期大学



陸上自衛隊衛生学校

派遣講話の様子



世田谷区教育委員会



フェリス女学院大学

## 語り部講話活動状況一覧表(令和4年1月末現在)

## 【派遣講話】

NO.	日付	団体名	語り部委嘱者	人数
1	令和3年7月21日	世田谷区教育委員会	塚原 浩太郎	18
2	令和3年8月7日	港区赤坂図書館	山本 有紀乃	3
3	令和3年8月11日	自立ステーションつばさ	塚原 浩太郎	24
4	令和3年12月21日	フェリス女学院大学	小暮 倫子	16

合計4団体 参加人数61名 (令和4年1月末現在)

## 【団体見学 語り部講話】

NO.	日付	団体名	語り部委嘱者	人数
1	令和3年7月27日	女子学院中学校	保坂 弘子	3
2	令和3年11月12日	千葉明德短期大学	大野 真理子	13
3	令和3年11月30日	陸上自衛隊衛生学校	湯浅 美和子	8
4	令和3年12月8日	陸上自衛隊衛生学校	山本 有紀乃	8

合計4回 参加人数32名 (令和4年1月末現在)

## 【定期講話会】

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、館内定期講話は実施しませんでした。



## 【10代】

- 戦争というものを体験した事がないので、体験者の方々の気持ちは全部は、理解しがたいですが、展示を見て、戦争のつらさや、みにくさが分かりました。兵士が、けがをしている様子や展示物を見てとても怖かったです。怖いからといって戦争に目をそむけては、だめだなと思いました。□
- 貴重な体験ができました。話だけではわかっていても、感じる事のできない恐ろしさや、残酷さ、理不尽な現実がありのまま展示されており、戦争の本当のおろかさに近づくために、必要だと思いました。
- とてもわかりやすい証言映像などがあり、その時の現状がすごく分かりました。私はまだ生まれてなかったけどきつと痛ましい思いをたくさんしたと思います。他の方々にもこのような体験や経験を知ってほしいと思いました。
- 話だけ聞いていても当時の様子はわかるけど、ジオラマをみたことでくわしい様子がわかった。
- ジオラマが本当に動き出しそうだったし その当時のものが飾られていてとても興味がわいた。

## 【20代】

- 今までネットで知った情報よりも、ずっと残酷で、ずっと苦勞された方々が、いたのだと知ることが出来た。こういった事実が後世の人々にもしっかりと伝わって、考えることのできる機会ができれば、いいなと思いました。
- 実物が置いてあるためにリアリティーが増したので良かった。負傷した兵士の義足や義手についてあまり知らなかったので、このような展示があると戦時中のリアルが知れた気がする。
- 今の生活ができることがとても幸せな事だと思いました。手紙が戦時中は喜ばれていることを知り、やはり家族が一番だと思いました。
- 戦争当時のさまざまな歴史的資料を見学することができ、非常に良い勉強となりました。特に2階にあった野戦病院のジオラマであったり、戦場での受傷病や治療、本国への搬送手段などが詳しく展示されており、戦争当時の衛生状況がどのようなものなのかを知ることができました。
- ジオラマは戦時中の医療の現場を本当に見ているのかと思うくらいリアルであった。

**【30代】**

- 当時の様子が伝わりやすかったと思いました。義足のこと、けがをなされた方々のこと、今までに考えたことが無い視点で戦争のことを知れたと思います。
- 戦争の思いは決して忘れてはいけないので後世に伝えていくことが大事だと感じました。

**【40代】**

- 常設展をじっくりみられましたので、とても勉強になりました。戦傷病者の方々の労苦が垣間見れた様に思えました。
- 戦争中の戦傷医療を学ぶのに良かったです。
- 傷痍軍人という立場になった方たちの戦中、戦後の大変さなど考えた事もなかったので、とても勉強になりました。病気やケガの大変さだけではなく、後に周囲から冷たくされたり、保障も十分でなく苦労したり・・・とさまざまな困難があったことを知りました。水木しげるさんのコーナーもとても興味深かったです。自分自身は日本での戦争を直接体験していない世代ですが、現在も世界中で戦争がなくなることは、本当に悲しいです。
- 当時の言葉では表現できない苦しみを少しでも肌で感じとれたように思います。こんな立派な資料があることは足を運んで「知らなければ」と感じました。今後も戦争のおそろしさやその後も苦しみ続ける方々がいることを伝え続けてほしいと思います。

**【50代】**

- 時の流れとともに分類が分かり易く、モノも厳選され、多すぎず大変見やすかったです。特に人の心の伝わる展示で一つ一つに涙があふれました。思いやりという言葉では表せない人を助けようとする人々の医療のみならず知人の就職など思い(詳細ななスケッチもその一つ)生きる工夫や心の持ち方、全てが今現在と全く変わらない人々というリアルさや親しみを実際に感じる思いでした。衝撃はたくさんありましたが、個人的に「とうとう内還か」のあと、(ホッとするかと思いきや)「残念でたまらなかった」というやりとりが当時は別世界であったことを思い知らせれました。
- 体験者のエピソードを中心にまとめられていたので、より具体的に義足の使われ方を見ることができ状況も想像しやすく、分かりやすい展示でした。

【60代】

- 水木しげる氏が戦争で、片腕を無くした事は知っているが戦争での苦勞については今回のビデオ映像で詳しく知ることができた。
- 戦争で被弾により足を切断しなければならなかった方の気持ちはいかばかりか、心が痛みます。『足を切断しなければ、命にかかわる』と軍医に言われた時の心中は察するに余りあると拝察します。義足をつけて、世の中で生活するのも大変なことだったと知り勉強になりました。
- 戦争体験者が減っていく中で多くの人に、このような資料館があることを知らせていく事が大切だと思いました。二度と戦争はしてはいけなと、今日は改めて思いました。

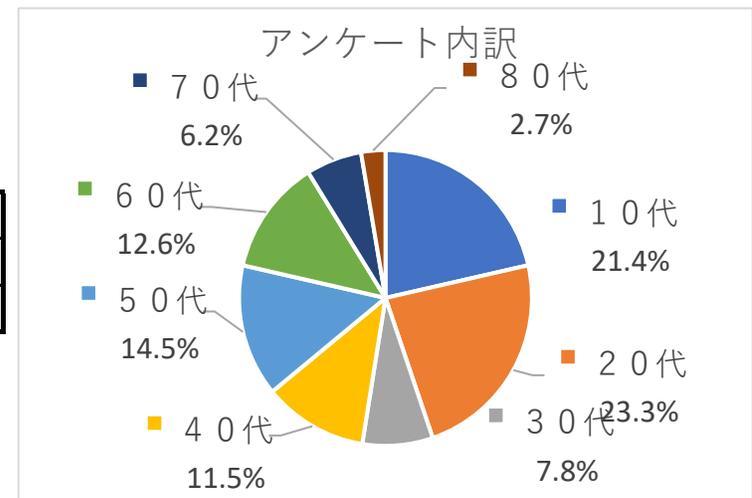
【70代】

- 義手、義足は技術が発展し、当時の物とは比べ物にもなりませんね。パラリンピックの選手達が跳んだり走ったりしている姿は夢のようです。2kg、3kgもある義足はどんなに重く、又、畳での和式の生活、トイレ等、洋風の生活が当たり前となっていますから当時は大変だったんですね。
- 軍人の負傷を取り扱っていることが素晴らしいと思いました。学校教育にも力を入れて取り組み込んでもらいたいと思います。

アンケート回答者年代別比率・アンケート総数 373件

令和4年1月末現在

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
比率	21.4%	23.3%	7.8%	11.5%	14.5%	12.6%	6.2%	2.7%
件数	80	87	29	43	54	47	23	10



アンケート用紙は 1階 フロアーに設置しています。